

【参加生徒】

各ゼミより1名ずつ、GCCより2名

【スケジュール】

11月24日(水)

10:45 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 中百舌鳥門 集合
 11:00-12:00 特別探究セミナー(高校生向け) 吉田敦彦教授
 12:20-12:45 使用教室で動作確認
 12:45-13:45 昼食(学生食堂)、大学図書館見学
 13:45-14:30 打ち合わせ、リハーサル
 14:45-16:05 「教育福祉学概論」招待授業

		(分)	内容	担当
14:35	14:45	10	紹介・説明	(府大)森岡教授・吉田教授
14:45	14:55	10	学校紹介・グローバル探究説明	(国際高校教員)松本
14:55	15:00	5	グローバルが生み出す力	(高校生)
15:00	15:05	5	いのちの輝きを未来に伝える	(高校生)
15:05	15:10	5	先人の知恵を未来へ届ける	(高校生)
15:10	15:15	5	みんなで作る、笑顔のコミュニティ	(高校生)
15:15	15:20	5	みんなちがうからみんなで支え合う	(高校生)
15:20	15:25	5	蒼い地球を未来につなぐ	(高校生)
15:25	15:30	5	GCC	(高校生)
15:30	15:35	5	発表のまとめ	松本
15:35	16:05	10	質疑応答	森岡教授・吉田教授
			まとめ	

【各自の発表内容・準備】

☆ 自分が所属するゼミについて説明

ゼミのみんなでどんなことを目指しているゼミか
 どんなテーマで取り組んでいる人がいるか、例をいくつか紹介

☆ 自分の探究テーマとその内容

目的、内容(手段、解決方法)、進捗状況
 グローバル探究や自分の探究活動を通して学んだこと、変わったこと、成長したこと など

☆ スライドを作成

☆ 持ち時間はひとり5分

☆ 授業の後半で、大学生や大学の先生とのセッション、質疑応答あり

質問に答えられるように準備しておく

【報告】

① 吉田教授とのセッション (60分)

生徒たちは自分たちの探究ゼミで向き合っている問題について説明したり、そこでぶつかっている悩みを出し合ったりした。「教育」に関心がある生徒は、日本全体の教育制度が変わることやそれぞれの質問や悩みについて、ていねいに答えていただいた。国際高校のグローバル探究やさまざまな活動を通して身につける力はこれからの社会が必要とする力であり、大学も今まさに求めている力であること、志高い人が集って社会が変わっていった歴史がある、その歴史をさらに刻むのがみんなであることなど。また、周りが変わらない、教育制度を変えるのが難しい、などという悩みには、「自分たちがモデルケースになって周囲を巻き込んでいこう」「自分たちが変わる姿を見てもらう、自分たちが楽しくやる、そうすればフォロワーが増えて変わっていくはず」というアドバイスをいただいた。質問が途切れることなく、時間が足りなくなるほど、充実したセッションとなった。

[生徒感想抜粋]

- 「自分が変わる」ことに新しく気付かされました。探究でとても戸惑うことが多かったのですが、先生からのお話で、どこのゼミ、どこのファミリーよりも自分たちが楽しいと思えるワクワクできる探究に取り組んでいると地震につながりました。
- 探究活動をしているグループでは心が折れそうになることもあり、私がリーダーじゃない方がいいんじゃないかと思うこともあります。先生のお話を聞いて、私が自ら姿を見てもらって、みんなの気持ちを積極的に変えていけるようにしたいです。
- 今回学んだことを胸に、自分たちから変わることができるように、また、誰かを引っ張っていくことができるように活動を頑張っていきたいです。
- 「他の人を変えようとするより、自分にエネルギーを使った方がよい」という教授の言葉がとても印象に残っています。行動で示して人の考えを変えられるインフルエンサーに、ロールモデルになれ、というとても前向きな意味として捉えることができました。
- 今までは「どうしたらみんな行動してくれるだろう」という考え方だったので、「楽しいから見て！」のスタンスでいくという考え方を心に留めておこうと思いました。
- 今回のセッションではタイミングがうまく掴めず、発言できずに後悔しています。今度機会があったら発言していきたいと思います。
- 「みんな変わっていこう！」ではなく、「私が変わる、そうすれば周りについてきてくれる」その精神で活動しようと思いました。私は今回引率の先生のゼミではありませんが、今回のセッションで、先生の探究に対する思いもたくさん聞くことができ、ついていこうと思いました。
- 最後にいただいたリルケの言葉が印象に残っています。探究は短い期間ではよい方向に導き切るのはすごく難しいけれど、予期せぬところにアイデアのかけらが落ちているのかと感じました。



②招待授業 (80分)

大学生約80名の授業で、公立高校の探究学習の取り組みを報告した。発表後の質疑応答でも、大学生から多くの質問があり、高校生たちはひとつひとつの質問に全員で回答した。

大学生の感想 (抜粋)

- 探究を通して知識や考え方だけでなく、行動力もついていくという話を聞いて、見る限りでもそうだし、普通の高校ではできない経験をしている彼女らを少し羨ましく思います。全体的にすごく刺激になりました。
- 野生動物について学ぶために地域に出て活動したり、動物園の園長からお話を聞いたりしていることから、社会と連携しているところが印象的でした。ゼミのテーマも一見抽象的に見えるのですが、探究内容は非常に身近な問題で、自分が知っている問題もありました。批判的に考える力や、世界規模の問題に対して自分ができていることを考え、行動する力が学校生活の中で身につけているのだと思います。
- 質疑応答の時にも、質問されたことに対して論理的に答えることはもちろんのこと、積極的に手をあげて応答していて、自分の意見を主張するのが苦手な私にとっては非常に尊敬できた。
- 「もやもやすることが多くなった」という発言に非常に共感した。私も府大に入学して色々な課題を深く学ぶようになって、一筋縄ではいかないなあと感じたり、自分にはどうすることもできないのではないかとモヤモヤすることが増えた。それを高校生のうちから経験しているということは本当に素晴らしいと思った。
- 高校生たちがとても主体的に、積極的に、具体的に広範囲の分野についてグローバルな視点で探究活動に取り組んでいるのがよく伝わってとてもよかったです。

高校生の感想 (抜粋)

- 質疑応答でみなさんがどんな疑問を投げかけて下さるのか不安でしたが、拙いながらも思っていることを率直に喋ることができました。学生の皆さんが活発に感想や質問を言ってくださって、私たちの発表を深く聞いてくださったのだなと感じることができて嬉しかったです。
- 大学生の話聞く姿勢やしっくりと思っていることを口に出すこと、リアクションをたくさんして下さるところを見習いたいと思いました。
- 今まで発表の時間は長く感じると思っていたが、今回は一瞬で、それほど充実していたのだと思います。私の顔を見てうんうんと頷きながら話を聞いてくださった大学生に感謝しています。熱心に耳を傾けて、私たちの



ためにたくさん質問をしていただいて、嬉しかったです。

- 自分が知って学び、インプットするだけではなく、発表という形でアウトプットし、質疑応答で答える中、私たちがもっと調べるべき点や新しい疑問を考えることができました。これからの活動に活かして取り組んでいきたいと思います。
- 「なぜ国際高校に入ったか」など、普段あまり気にすることのないことを考えるきっかけになり、とてもよかったです。中でも熟考しなければ答えが出ないようなレベルの高い質問をいただいた時は、自分たちの取り組みについて考え直す機会にもなりました。
- 私たちが新たに学んだり、もっと考えたりすべきだと思えるような助言もいただき、「大学生」になるとこんなことも思いつくのか、と自らの将来に少し期待が高まった貴重な経験でした。
- 私の探究は多くの人に問題を知ってもらうことを目標にしているので、この機会に発表できてよかったです。前でプレゼンしている際、本当に緊張していましたが、大学生の真剣に聞いてくれる表情を見て、自分の思っていることを伝えることができました。
- プレゼン前に柄にもなく緊張してしまったのは、きっと今回は聞き手側だった大学生の皆さんの眼差しが真剣だったからだと思います。私たちのプレゼンを本気で聞いてくださる！というのを感じ、私も本気になりました。私もみなさんに負けないよう、これからも頑張ります。



エ GCC (Global Citizens Club) の取り組み

①【シトラスリボンプロジェクト】

ボランティアなど、さまざまな交流がしたいと思って入部した部員も多かったが、コロナ禍で始まった高校生活の中、活動制限がかかり、何ができるかを考えた。コロナ禍でも誰かのために最前線で活躍してくれるエッセンシャルワーカーのみなさんに感謝の気持ちを伝えることと、コロナ禍での差別や誹謗中傷などで悲しい思いをする人がない社会を目指したい、優しい気持ちになれるリボンを作成し、多くの人に配布しようと、愛媛県から始まった柑橘色のリボンのプロジェクト、「シトラスリボンプロジェクト」に参加した。

作り方から皆で検索し、動画を見たり、教え合いをしたりしながら、部員全員でリボン作りをした。ポスターも作成し、学校近辺の郵便局、在宅介護サービス施設、病院、保育園に届けた。学校の事務室や図書館にも設置してもらい、訪問者や生徒・教員にも取ってもらえるようにした。

長期休業中にもみんなで作成するなどして、三者懇談、大学説明会、留学説明会、中学生対象オープンスクール、など、来校する人が多いイベントなどで配布してもらった。2021年度入学生には全員に配布した。

奈良市内の保育所から、園児に配布を希望していただき、コロナ禍が少し落ち着いていた11月に、生徒が訪問し、園児に「やさしくなるリボン」として、配布させていただいた。

地域全体がこのリボンを通してつながり、やさしい声かけをしあえること、部員も地域とのつながりを意識したくらしができることに感謝している。



② 環境学習教材開発事業

スタートは1年生の「グローバル探究I」での、ボルネオにおける環境問題の学びに始まる。授業では時間が限られており、問題解決のための行動に移すことができなかつたことで、部員たちはモヤモヤ感が払拭できずにいた。自分たちにできることを何かしたい、もっと人に伝えたい、そんな思いが深まった部員たちに、体験型の子ども向け分断ゲームをボード版にしないか、という話を持ちかけた。

コロナ禍以前、認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパンでは、子ども向けのイベントなどで、環境学習を行っていた。そのうちのひとつは、床を熱帯雨林に見立てたシート

を敷き詰め、子どもたちに動物になってもらって熱帯雨林が減少することを体感してもらう環境学習のゲームであるが、コロナ禍の今、体験型のゲームは実施困難になっていた。部活動顧問がボランティアで環境学習のプログラムの手伝いをしていたことから、部員たちにも興味があるなら、密にならないボード版を作成できないかと提案した。

【第1弾】分断ゲームで国際高校1年生に伝えよう！

・分断ゲーム制作

- 緑色の八つ切り画用紙2枚をつなぎ、熱帯雨林に見立てる
- 画用紙の真ん中に川を描く
- 動物のコマを作る（動物の写真をラミネートし、切り抜く）
- 果物チップを作る
- プランテーションチップを作る（植物油が原材料に含まれるお菓子の空き箱を切る）
- ゲームを進めるスライド作成
- 台本作成

・授業実施

1年生5クラスで実施、4人1組に1セット、48セット作成
6月7日7時間目に実施、各クラスに2名ずつ参加



【第2弾】旭川市の小学生に分断ゲームを届けよう！

旭川市旭山動物園は、環境教育の一環として、市内小学校で実施しているボルネオの環境問題を考える授業を実施している。その授業で用いられないかと、声をかけていただいた。担当者と数回オンラインでミーティングを行い、小学生向けのグッズを作成。

・分断ゲーム制作

旭川市旭山動物園 教育普及担当の方とオンラインミーティング

授業で実施した内容の改善点と小学生向けの内容になるよう、ディスカッション

- 動物のコマを立体的にする
紙粘土で土台を作り、立体にしたが、その後、折り畳みできる紙製のコマに変更
- プランテーションチップをお菓子の箱ではなく、表がパーム油製品、裏がアブラヤシの絵を描いたコマに変更
- 果物チップはシートに糊付けする
- スライドはそのまま、旭山動物園で変更してもらう



・実践

新たにコマなどを作り直し、13セットを送った。コロナ禍で小学校でのグループワークができないので、解禁になれば、実施予定。

【第3弾】NPO法人と動物園、高校がコラボ、動物たちのふるさとを知ってもらう分断ゲームを開発しよう！

SOMPO環境財団の助成を受け、動物園等で使用可能な分断ゲームキットを作成中。認定NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパンのスタッフ、旭山動物園スタッフの皆さんとオンラインでのディスカッションを続けている。

・分断ゲーム制作

- 短時間でできること
- 何も知らないでもできること
- 混乱を招かない説明（時間のロスにならないように）
- 貼りパネ（A2サイズ）を用いて作成
- 動物は3種類
- シートにマス目を入れるか検討 など



なお、このプロジェクトについて、ジブラルタ生命・プルデンシャル生命・ジブラルタ プルデンシャルファイナシャル生命・日本教育新聞社主催 ボランティア・スピリット・アワード2021 ブロック賞受賞